別紙様式１（中）

令和５年度　学校経営計画表

１　学校の現況

学校番号	中学９	学校名	県立下妻第一高等学校附属中学校			課程	ー			学校長名		渡邉　　剛				
副校長名	生井　秀一		教頭名	近松　香織						事務（室）長名		佐藤　房雄				
教職員数	教諭	12	養護教諭	1	常勤講師		非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		事務職員		技術職員等	1	計	15

生徒数	１年		２年		３年		合計		合　計クラス数
	男	女	男	女	男	女	男	女	
	20	20	20	20			20	20	2

２　目指す学校像

【目指す学校像】

様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校

【育てたい生徒像】

社会の発展に貢献し、よりよい未来を切り拓くリーダーの育成

○　よりよい未来の創造に向かって能動的に挑戦し、心身ともにたくましく成長する生徒

○　教養があり、知性と感性をバランスよく備え、地域社会および国際社会の発展に貢献できる生徒

○　お互いの違いを認め、それを尊重しながら他者と協働できる生徒

○　科学的な観察力をもち、身に付けた判断基準を根拠に行動できる生徒

別紙様式１（中）

３　現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	探究的な学びが基盤となる授業「下高楽習スタイル」を実践している。「下高楽習スタイル」とは、「分からない」を大切にし、「なぜ？どうして？」を授業のキーワードとした課題解決型授業のことである。また、少人数授業展開やＴＴによる授業を積極的に行っている。さらに、双方向可能なアプリを導入したICT機器を効果的に活用することで主体的・対話的で深い学びの実現を図っている。 定期考査は実施せず、単元テストや小テストをこまめに実施しており、生徒の学習到達度や学習状況を把握している。また、授業の振り返りやテスト後の教科面談を実施することで、生徒自身が学習のPDCAサイクルを見直す機会を作っている。	「下高楽習スタイル」を実践するために授業改善と生徒の学びを最大限に引き出す手立てを組織的に行うことが求められる。そのためには、相互授業参観の実施や課題解決型授業の研究と研修、教員間の情報交換、またはICT機器の効果的な活用方法を研究し実践することが必要である。 「下高楽習スタイル」を組織的に確立することで主体的・対話的で深い学びや個別最適な学び、そして協働的な学びの充実を図り教科横断的な学習ができる生徒を育てることが課題である。 「指導と評価の一体化」を目指した観点別評価規準と評価の手立てについて引き続き検討していく必要がある。具体的には、生徒の学びを最大限に引き出し、生徒の学びを支援するような授業改善を実践することが必要である。それにより、生徒の自己調整力が高まり、学力の向上につながると考える。そのために、授業内評価や単元テスト、小テストを計画的にこまめに実施することで生徒の学習到達度や学習状況を把握し、生徒にフィードバックする必要がある。具体的には、テスト後に教科面談を計画的に実施することで生徒が学習のPDCAサイクルを見直す機会を作る。

別紙様式１（中）

生徒指導	ほとんどの生徒が高い規範意識をもっており、社会的な場面、特に他者と関わる状況において高いコミュニケーション力を発揮している。 各人が自分なりの目標をもっており、高い自立心と正しい判断力のもと行動しようとする姿勢が見られる。また、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っており、元気な挨拶や正しい身なりを心がけたり、時間を守って行動したりする等の基本的生活習慣が身に付いている。 生徒が自身のスマートフォンやパソコンを授業や日常生活の中で使用する場面が多くなっている。	基本的な学校生活において意識すべき社会規範を共有し、それに基づいて生徒自らが考え行動し、かつ振り返ることで次の行動に生かせるようにするための機会が少ない。特に対人関係において、他者を尊重し、相手を理解しようと努める気持ちを行動面で示すことのできる機会が少なくなりがちである。 学習面をはじめ、学校生活において自ら設定した目標が達成できず、自己肯定感が低下し登校に消極的になることや、友人や家族等の人間関係上のストレスや発達段階特有の悩みを抱えてしまい、経験不足からどう困難に対処し克服すべきかわからず苦しむ生徒もいる。 自分のスマートフォンやパソコンを所持し、SNS やオンラインゲーム等のサービスを利用する生徒が増える時期であることから、インターネット上の犯罪やトラブル等の被害に巻き込まれる可能性が高まることが考えられる。
キャリア教育	コロナ禍により、職場体験等の校外における体験活動や交流活動等の実施が難しい状況となり、生徒の職業観や勤労観を育成する機会が乏しい。	生徒が小学校・中学校・高校まで、組織的かつ系統的に自分の将来の夢や希望、目標に向かってキャリアを積み重ねることができるように、キャリア・パスポートの活用を行う必要がある。 学校行事等の際にも、実践的な体験活動や交流活動を推進することで、生徒が職業観や自分の生き方について考える場面を設定する必要がある。

別紙様式１（中）

特別活動	多くの生徒が自立心をもち、主体的に活動に取り組んでいる。また、集団の一員としての自覚をもち、協働で活動を行うことができる。他者に対して尊重する気持ちをもち、進んで仕事を行うなどのボランティア活動の意義を理解している。	ホームルーム活動、学校行事、部活動への参加等の活動をとおして、他者理解や協働性を高めることが重要である。また、高校生との合同による活動等の異年齢交流をとおして社会性と集団の中での責任感や公共心を養う場面を意図的に取り入れる必要がある。 体験活動や交流活動の実施の際に自主性を重んじ、効果的な体験活動を図ることが必要である。
働き方改革	限られた人数で校務全般を担っているため、一部の職員に業務が偏ってしまうことがある。また、各部の動きが分からず、連携がとれていないこともあり、効率的に業務を進めていく方法を模索している。	校務分掌を適切に配置するとともに、各部のリーダーを中心として連携のある組織づくりを行い、チームが機能的に働けるような体制を構築し、働き方改革につなげていくことが重要である。 勤務時間の視覚化をとおして、効率的な働き方について、職員の意識の向上を図っていく必要がある。

４　中期的目標

１　「探究的な学び」を基盤とした、主体的・協働的で深い学びの実現を図る。
　※　総合的な学習の時間における「探究活動×国際教育×探究ゼミ」の充実
２　生徒の疑問から始まる課題解決的な学習や協働活動を取り入れた「下高楽習スタイル」をとおして、確かな学力の育成を図る。
３　適切な生徒理解に努め、体験活動や交流活動をとおして、豊かな人間性の育成を図る。

別紙様式１（中）

５　本年度の重点目標

重点項目	重点目標
協働的・探究的な学びの充実 「為桜 CIIS メソッド」の実践	①「下高楽習スタイル」である、「分からない」を大切にし、「なぜ？どうして？」を授業のキーワードとした課題解決型授業を実践する。 ②少人数授業展開やＴＴによる授業を実践することで、個別最適化された学習の支援を行う。 ③１人１台端末やICT機器を効果的に活用することで主体的・対話的で深い学びを実践する。 ④生徒の学びを最大限に支援するために、授業内評価、単元テストや小テスト、教科面談を計画的に実施し、生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成と学力の向上を図る。 ⑤「下高楽習スタイル」である探究的な学びをとおして、教科横断的な学習ができる生徒を育てる。
基本的な生活習慣の確立と自主的、自立的な態度の育成	⑥挨拶や生活のきまり、礼儀やマナーについて学級活動等で適宜指導を行い、附属中生としての生活習慣の基礎を確立する。 ⑦各委員会活動や係活動を充実させ、生徒が主体的に取り組める行事等を企画し、自主的、自立的な態度を育成する。 ⑧生徒が主体的に取り組めるよう、課題解決型授業を積極的に実践していくとともに、生徒の実態に即した学習習慣のさらなる定着を図る。 ⑨探究活動および探究プロジェクト関連行事等をとおして、コミュニケーション力や実行力、発信力、創造力等豊かな人間性を育むとともに、課題解決に向け粘り強く物事に取り組む忍耐力や、その過程で経験する困難に遭遇しても自ら置かれた状況に適応することにより苦しみを克服することができる力（レジリエンス）といった精神的なたくましさも育む。 ⑩高校生等との異年齢交流を推進し、自立心とリーダー性を育てる。 ⑪給食指導や食育等をとおして、基本的な生活習慣と健康的な心身の育成に努める。
特別活動の充実	⑫自ら考え、自ら行動する活動の充実を図る。 ⑬学校行事等をとおして、他者理解を深め、人間性や社会性の育成を図る。 ⑭クラス運営に必要な組織をつくり、適切な役割分担ができる活動の充実を図る。 ⑮積極的な生徒会活動、部活動への参加を促進する。 ⑯キャリア・パスポートの活用をとおして、小中高と継続的なキャリア形成と自己実現を支援する。 ⑰体験活動や交流活動をとおして、自分の生き方について考える機会を設ける。

別紙様式１（中）

広報活動の推進と地域との連携	⑱生徒の活躍する場面の発信等を掲載した学校ホームページを充実させる。 ⑲生徒が中心となった小中連携や中高連携、学校説明会や学校公開、公開授業等の内容を充実させる。 ⑳下妻市役所や地元企業、大学等の外部機関との連携をとおした学習活動を実施する。 ㉑学校評議員会、PTA、同窓会等との連携の強化と情報公開に努める。 ㉒高校生との異年齢交流を推進する。 ㉓卒業生や地域の方々、外部機関との交流を図り、自分の生き方やキャリアについて考える力を養う。
働き方改革の推進	㉔学校全体で協議し、業務の精選を行い、事業の削減に努める。 ㉕ICT機器を効果的に活用し、情報伝達や共有を図る。 ㉖在校時間を管理し、時間を意識した働き方の改善を推進する。 ㉗適切な役割分担と職員間及び校務分掌の連携を推進し、責任と権限の明確化を図る。
キャリア教育の充実	㉘各種セミナー等をとおして、興味・関心等に基づく勤労観・ 職業観の形成を図る。 ㉙キャリア・パスポートを活用し、主体的な進路の選択と将来設計ができる機会を設ける。 ㉚キャリア・パスポートを活用し、自己理解の深化と自己受容を深める。 ㉛学校行事等をとおして、生き方や進路に関する現実的な探索を支援する。
授業改善と学習評価の充実	㉜計画的に学習指導方法や観点別評価方法を研究・実践し、教員間で情報交換することで授業改善を図る。 ㉝他校視察や相互授業参観、または各種研修会へ積極的に参加することで授業改善を図る。 ㉞生徒による「授業満足度」の平均値3.2以上を目指す。

為桜CIISメソッド

(1) Class　授　業　「下高楽習スタイル」課題解決型授業の実施

(2) Inquiry Activity　探　究　① ゼミ型教養講座の実施（年間４単位の実施　約10ゼミ開講）　生徒の教養を深める。
② グループ課題探究

(3) International Education　国際教育（月２時間　総合的な学習の時間）　国際理解＋オンライン英会話等

(4) School Life　学校生活　① 学校行事の充実　異年齢交流（定期戦・為桜祭・為桜OP・踏破会）における運営への参加
② 他校との交流（小中、中高交流）